

2007年度(2008年3月期) 決算説明会



2008年5月9日

株式会社 山武

目次

2007年度(2008年3月期) 決算説明会

1	2007年度(2008年3月期) 決算報告	P. 4
2	2008年度(2009年3月期) 事業計画	P.16
3	2007年度配当・2008年度配当予想	P.21
4	その他	P.23

本資料に記載されている当社の現在の計画, 目標等過去の事実でないものは将来の業績に関する見通しであり, これらは現在入手可能な情報を基とする合理的な判断に基づくもので, 将来の業績を保証するものではありません。

実際の業績は, さまざまな要因により, これら見通しとは大きく異なる結果になることがあります。

* 数値は表示単位未満四捨五入しております

「人を中心としたオートメーション」を追及する山武グループは、「建物」のオートメーションを進めるビルディングオートメーション事業、「工場やプラント」のオートメーションを進めるアドバンスオートメーション事業及び「生活・生命」に関わる領域でオートメーション技術を活用するライフオートメーション事業の3つの分野で事業を展開しています。

社会・生活に密着した事業でありながら、それぞれに市場の特性が大きく異なるこれら3つの事業を組み合わせ、シナジー（融合領域）を推進することで、山武グループの持続的な成長を支えています。



■ ビルディングオートメーション事業(BA)

ビルディングオートメーションシステム、セキュリティシステムから、アプリケーションソフト、コントローラ、バルブ、センサまでのフルラインナップを自社にて開発、製造することで高機能、高品質を実現。計装設計から販売、エンジニアリング、サービス、省エネソリューション、設備の運営管理までを一貫した体制で提供し、独自の環境制御技術で、人々に快適で効率のよい執務・生産空間の創造と、環境負荷低減に貢献します。

■ アドバンスオートメーション事業(AA)

石油、化学、鉄鋼、紙パルプなどの素材産業や、自動車、電気・電子、半導体、食品などの加工・組立産業の課題解決に向け、装置や設備の最適運用をライフサイクルで支援する製品やソリューション、計装・エンジニアリング、保守サービスを提供。先進的な計測制御技術を発展させ、安全で人の能力を發揮できる生産現場の実現を目指すとともに、お客さまとの協働を通じ新たな価値を創造します。

■ ライフオートメーション事業(LA)

建物市場や工業市場で永年培った計測・制御・計量の技術と、心のこもった人の手による行き届いたサービスを、ガス水道などのライフライン、生活の場、介護・健康支援などに展開、「人々のいきいきとした暮らし」に貢献します。

1 2007年度(2008年3月期)決算報告

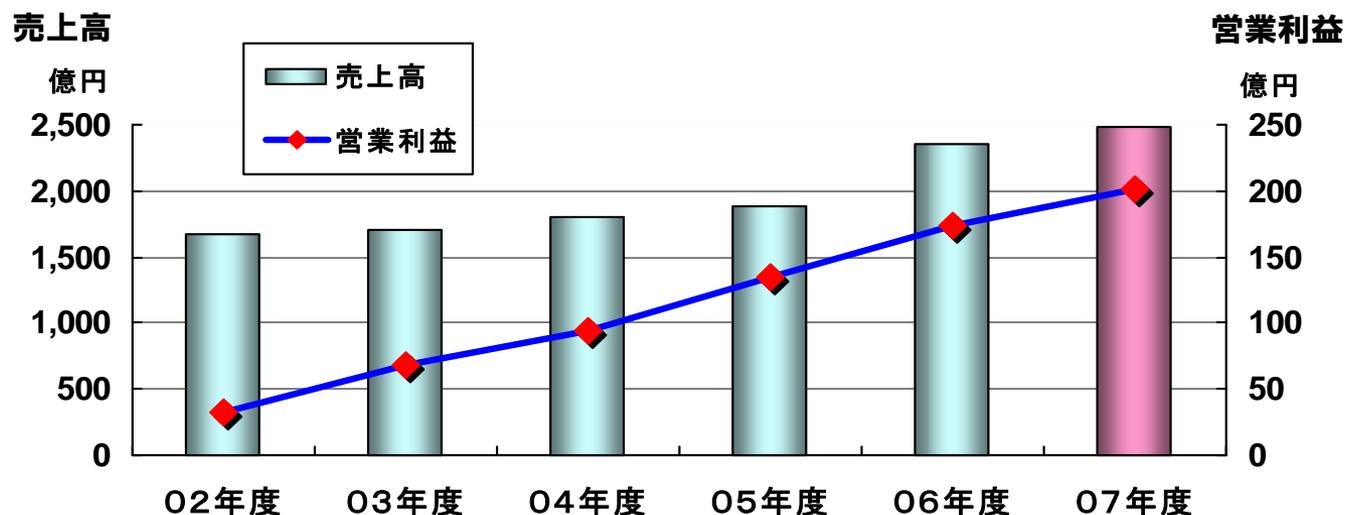
連結業績サマリー



2007年度は、5期連続の増収、増益。山武初の営業利益200億円超を達成。

(単位: 億円)

	2002年度 (2003/3期)	2003年度 (2004/3期)	2004年度 (2005/3期)	2005年度 (2006/3期)	2006年度 (2007/3期)	2007年度 (2008/3期)
連結 売上高	1,680 億円	1,700 億円	1,808 億円	1,883 億円	2,346 億円	2,486 億円
営業利益	33 億円	68 億円	94 億円	135 億円	173 億円	205 億円
売上比%	2.0 %	4.0 %	5.3 %	7.2 %	7.4 %	8.2 %
経常利益	33 億円	68 億円	95 億円	139 億円	179 億円	204 億円
税引前利益	112 億円	65 億円	58 億円	157 億円	179 億円	195 億円
当期利益	53 億円	32 億円	37 億円	98 億円	106 億円	107 億円



2007年度 経営成績



● 全体としての業績は、売上高、営業利益ともに堅調に伸長。

- 売上高は2,486億円。前年比140億円増。6.0%の伸長。
- 営業利益は205億円。前年比32億円増、18.3%アップと大きく伸長。原材料価格高騰など厳しい事業環境に対応すべく、体質強化を実施。
- 当期利益は107億円。基盤整備関連他で特別損失を計上(次ページご参照)。

(単位: 億円)

	2006年度 (2007/3期)		2007年度 (2008/3期)							
	通期実績(A)	通期実績(B)	前年比増減		当初計画(C) (2007.5.10)	当初計画比増減		修正計画(D) (2007.11.8)	修正計画比増減	
			(B)-(A)	%		(B)-(C)	%		(B)-(D)	%
連結 売上高	2,346 億円	2,486 億円	140 億円	6.0 %	2,440 億円	46 億円	1.9 %	2,485 億円	1 億円	0.0 %
営業利益	173 億円	205 億円	32 億円	18.3 %	200 億円	5 億円	2.4 %	203 億円	2 億円	0.9 %
売上比%	7.4 %	8.2 %			8.2 %			8.2 %		
経常利益	179 億円	204 億円	25 億円	14.3 %	196 億円	8 億円	4.1 %	203 億円	1 億円	0.5 %
税引前利益	179 億円	195 億円	17 億円	9.4 %	193 億円	2 億円	1.2 %	203 億円	△ 8 億円	△ 3.7 %
当期利益	106 億円	107 億円	1 億円	0.6 %	120 億円	△ 13 億円	△ 10.8 %	114 億円	△ 7 億円	△ 6.1 %

2007年度 営業外・特別損益比較

- 特別利益として、旧工場敷地等の固定資産売却益を計上。
- 特別損失として、金門製作所の株式時価下落によるのれん及び投資その他の資産の減損損失を計上したほか、利益体質改善に向けた金門製作所事業用固定資産の減損処理等を計上。

(単位: 億円)

	2006年度 (2007/3期)	2007年度 (2008/3期)		
	通期実績(A)	通期実績(B)	前年比増減	
			(B)-(A)	%
営業利益	173 億円	205 億円	32 億円	18.3 %
営業外収益	11 億円	9 億円	△ 2 億円	△ 16.4 %
営業外費用	6 億円	10 億円	4 億円	78.2 %
経常利益	179 億円	204 億円	25 億円	14.3 %
特別利益	6 億円	31 億円	25 億円	393.7 %
特別損失	6 億円	40 億円	33 億円	529.6 %
税引前利益	179 億円	195 億円	17 億円	9.4 %
法人税等	72 億円	88 億円	16 億円	22.5 %
当期利益	106 億円	107 億円	1 億円	0.6 %

セグメント別 売上・営業利益

- BA、AA両事業で売上が伸長し、それぞれ1,000億円超を達成。

(単位:億円)

	2006年度 (2007/3期)		2007年度 (2008/3期)							
	通期実績(A)	通期実績(B)	前年比増減		当初計画(C) (2007.5.10)	当初計画比増減		修正計画(D) (2007.11.8)	修正計画比増減	
			(B)-(A)	%		(B)-(C)	%		(B)-(D)	%
BA 売上高	890 億円	1,005 億円	115 億円	13.0 %	950 億円	55 億円	5.8 %	998 億円	7 億円	0.7 %
営業利益	85 億円	118 億円	33 億円	38.9 %	100 億円	18 億円	17.5 %	107 億円	11 億円	9.8 %
売上比%	9.5 %	11.7 %			10.5 %			10.7 %		
AA 売上高	997 億円	1,054 億円	57 億円	5.7 %	1,065 億円	△ 11 億円	△ 1.0 %	1,055 億円	△ 1 億円	△ 0.1 %
営業利益	91 億円	89 億円	△ 1 億円	△ 1.6 %	100 億円	△ 11 億円	△ 10.7 %	96 億円	△ 7 億円	△ 7.0 %
売上比%	9.1 %	8.5 %			9.4 %			9.1 %		
LA 売上高	368 億円	365 億円	△ 3 億円	△ 0.9 %	365 億円	△ 0 億円	△ 0.1 %	358 億円	7 億円	1.8 %
営業利益	△ 5 億円	△ 3 億円	2 億円	-	△ 1 億円	△ 2 億円	-	△ 2 億円	△ 1 億円	-
売上比%	△ 1.4 %	△ 0.8 %			△ 0.3 %			△ 0.6 %		
その他 売上高	111 億円	84 億円	△ 27 億円	△ 24.4 %	91 億円	△ 7 億円	△ 7.6 %	88 億円	△ 4 億円	△ 4.4 %
営業利益	4 億円	1 億円	△ 3 億円	△ 76.5 %	1 億円	△ 1 億円	△ 41.0 %	2 億円	△ 1 億円	△ 58.7 %
売上比%	3.2 %	1.0 %			1.5 %			2.3 %		

ビルディングオートメーション事業

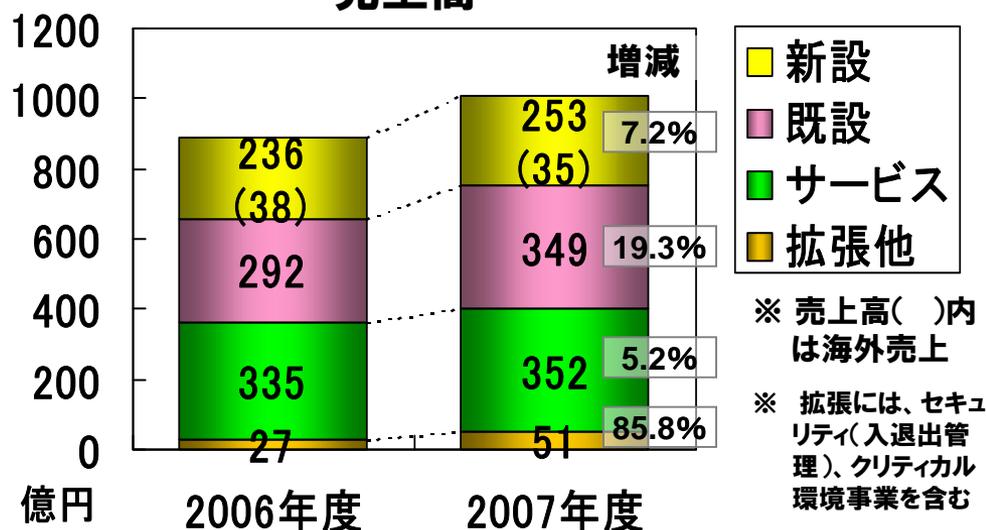


■ BA事業は、順調な市場環境下、事業機会を確実に押さえ、中間期末での上方修正計画を上回る売上高1,005億円(前年比115億円、13.0%増)、営業利益118億円(前年比33億円、38.9%増)を達成。

(単位: 億円)

	2006年度 (2007/3期)			2007年度 (2008/3期)			前年比増減	
	上期	下期	通期(A)	上期	下期	通期(B)	(B)-(A)	%
売上高	365 億円	525 億円	890 億円	433 億円	572 億円	1,005 億円	115 億円	13.0 %
営業利益	16 億円	68 億円	85 億円	32 億円	86 億円	118 億円	33 億円	38.9 %
売上比%	4.4 %	13.0 %	9.5 %	7.3 %	15.0 %	11.7 %		
受注	559 億円	387 億円	947 億円	611 億円	410 億円	1,021 億円	75 億円	7.9 %
受注残	487 億円	349 億円		527 億円	366 億円		16 億円	4.7 %

売上高



- 国内の首都圏を中心とした再開発プロジェクト等で新規建物は活発な投資が継続し、前年を大きく上回る伸長。
- 環境負荷(CO₂)低減ニーズの高まり・規制強化を背景に、既設、サービス市場が堅調に事業を拡大。大型物件の影響もあり、ESCOも大きく伸長。
- 拡張に含まれるセキュリティ(入退出管理)事業も、金融機関における需要拡大・大型ジョブにより増収。

アドバンスオートメーション事業

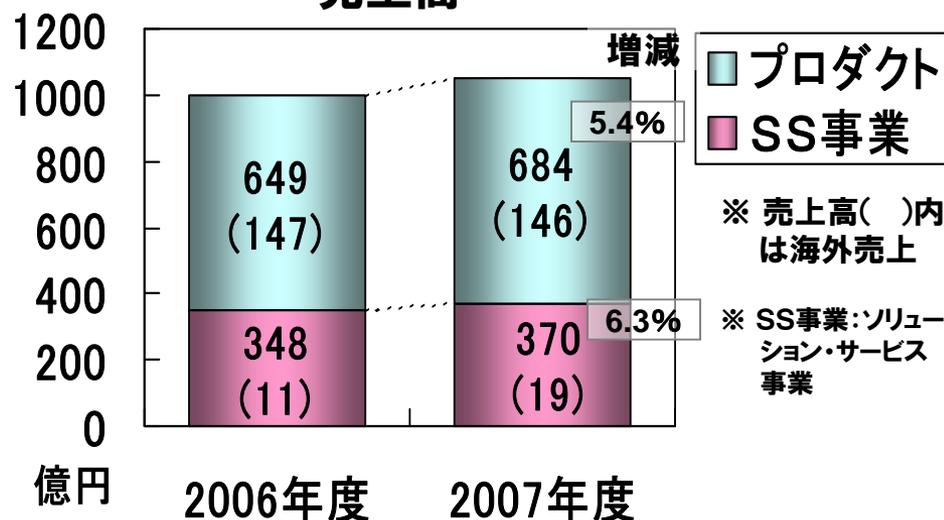


- AA事業は、国内設備投資環境が鈍化する中、売上高は、1,054億円(前年比57億円、5.7%増)を達成。営業利益は、原材料価格の高騰等の影響を受け89億円(前年比1億円、1.6%減)にとどまる。

(単位:億円)

	2006年度 (2007/3期)			2007年度 (2008/3期)			前年比増減	
	上期	下期	通期(A)	上期	下期	通期(B)	(B)-(A)	%
売上高	450 億円	547 億円	997 億円	495 億円	559 億円	1,054 億円	57 億円	5.7 %
営業利益	38 億円	52 億円	91 億円	41 億円	48 億円	89 億円	△ 1 億円	△ 1.6 %
売上比%	8.5 %	9.5 %	9.1 %	8.3 %	8.6 %	8.5 %		
受注	494 億円	522 億円	1,016 億円	528 億円	501 億円	1,029 億円	13 億円	1.3 %
受注残	307 億円	282 億円		315 億円	256 億円		△ 25 億円	△ 9.0 %

売上高



- ◆ 国内は設備投資が鈍化、半導体など一部市場から複数市場に拡大。
- ◆ 流量計増産ため、金門・京都工場に設備を新設。次世代性能製品生産に向け、湘南工場の生産設備を強化。
- ◆ 前年度下期に販売子会社を連結。

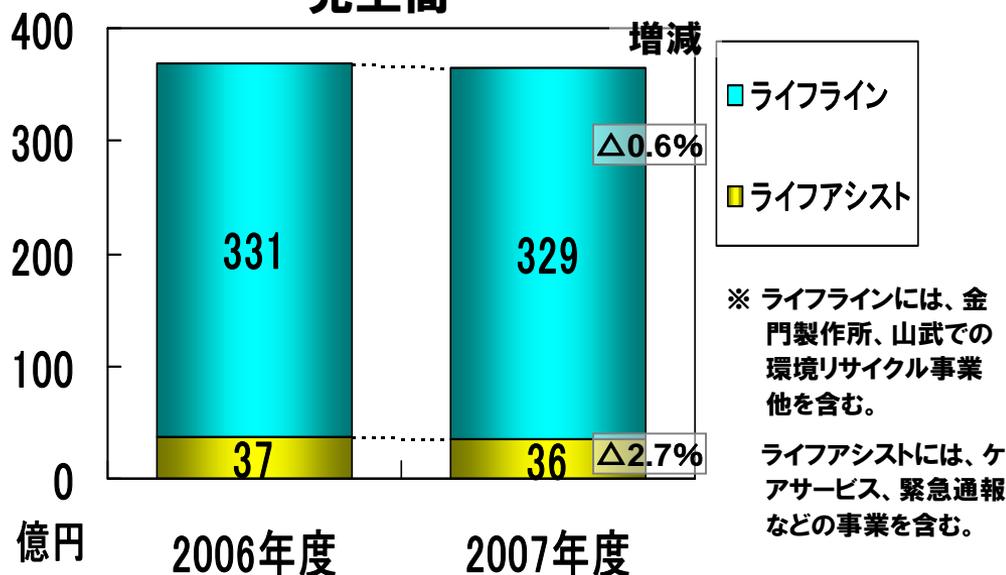
ライフオートメーション事業

■ LA事業は、厳しい事業環境下におかれ、売上高は、365億円(前年比3億円、0.9%減)と減収を余儀なくされたが、収益構造の改善に取り組み、営業損は3億円(前年比2億円)の改善を実現。

(単位:億円)

	2006年度 (2007/3期)			2007年度 (2008/3期)			前年比増減	
	上期	下期	通期(A)	上期	下期	通期(B)	(B)-(A)	%
売上高	186 億円	182 億円	368 億円	185 億円	180 億円	365 億円	△ 3 億円	△ 0.9 %
営業利益	△ 3 億円	△ 2 億円	△ 5 億円	△ 2 億円	△ 1 億円	△ 3 億円	2 億円	-
売上比%	△ 1.5 %	△ 1.3 %	△ 1.4 %	△ 1.2 %	△ 0.4 %	△ 0.8 %		
受注	193 億円	178 億円	370 億円	190 億円	176 億円	366 億円	△ 5 億円	△ 1.2 %
受注残	15 億円	11 億円		16 億円	12 億円		1 億円	11.2 %

売上高



- ◆ 金門製作所では、LPガス機器事業が伸長したものの都市ガス機器の循環的需要減衰期の影響等により前年度322億円から320億円に減収。
- ◆ 山武グループ協業による金門製作所の事業基盤整備等、LA事業を構成する各事業分野における収益構造改善の結果、営業損を改善。

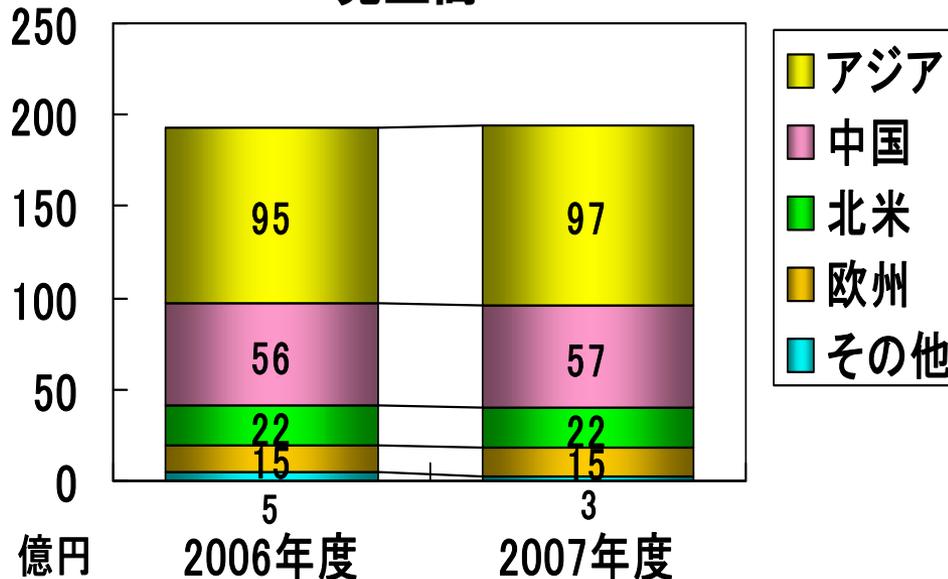
国際事業 (海外売上高)

- 国際事業の売上高は、海外現地法人での工業市場向け製品・システムの販売は増加したが、BA事業およびAA事業の直接輸出が減少したため、全体としては194億円(前年比1億円、0.6%増)にとどまる。

(単位: 億円)

	2006年度 (2007/3期)	2007年度 (2008/3期)	前年比増減	
	通期(A)	通期(B)	(B)-(A)	%
売上高	193 億円	194 億円	1 億円	0.6 %

売上高



- ◆ BA事業:
中国における日系投資の減少及び日系企業の発注形態が現地建設流通への切り替え時期となり、これらの影響を受け減収。
- ◆ AA事業
2006年度にあった中国、中東における大型案件の終了等の影響を受け直接輸出分は減収。一方、海外販売現地法人の売上は、注力市場である中国及びその他アジア地域で伸長。

※ 上記国際事業(海外売上高)は、今回より現地法人と直接輸出の売上のみを集計しており、間接輸出は含んでおりません。

※ 国際事業(海外売上高)は内数です。

連結財政状況



- 総資産は、前年比ほぼ横這いの2,288億円。
- 投資その他の資産は、保有株式の時価下落、金門製作所の株式時価下落による減損損失などにより90億円の減少。

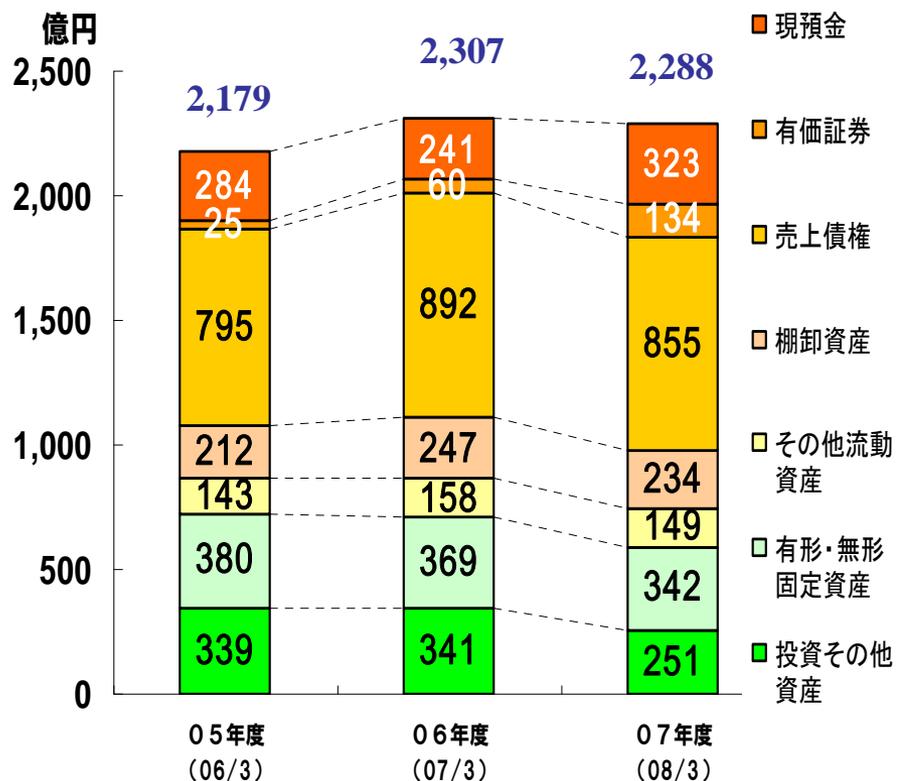
(単位: 億円)

	A	B	B-A		A	B	B-A
	06年度(07/3)	07年度(08/3)	増減		06年度(07/3)	07年度(08/3)	増減
流動資産	1,597	1,696	99	流動負債	870	871	1
現預金	241	323	83	仕入債務	422	421	△ 1
売上債権	892	855	△ 37	短期借入金／社債	143	144	2
有価証券	60	134	74	その他	305	305	0
棚卸資産	247	234	△ 13				
その他	158	149	△ 9				
固定資産	710	593	△ 117	固定負債	247	201	△ 47
有形固定資産	307	293	△ 13	長期借入金／社債	66	45	△ 20
無形固定資産	62	49	△ 13	退職給付引当金	159	140	△ 19
投資その他の資産	341	251	△ 90	その他	23	15	△ 8
				負債合計	1,117	1,071	△ 46
				株主資本	1,102	1,162	60
				- 資本金	105	105	0
				- 資本剰余金	126	126	0
				- 利益剰余金	870	937	67
				- 自己株式	△ 0	△ 7	△ 7
				評価・換算差額等	77	42	△ 35
				- その他有価証券評価差額金	75	39	△ 36
				- 繰延ヘッジ損益	△ 0	0	0
				- 為替換算調整勘定	2	3	1
				- 少数株主持分	11	14	3
				純資産合計	1,190	1,217	28
資産合計	2,307	2,288	△ 18	負債及び純資産合計	2,307	2,288	△ 18
現金及び現金同等物	352	493	141				

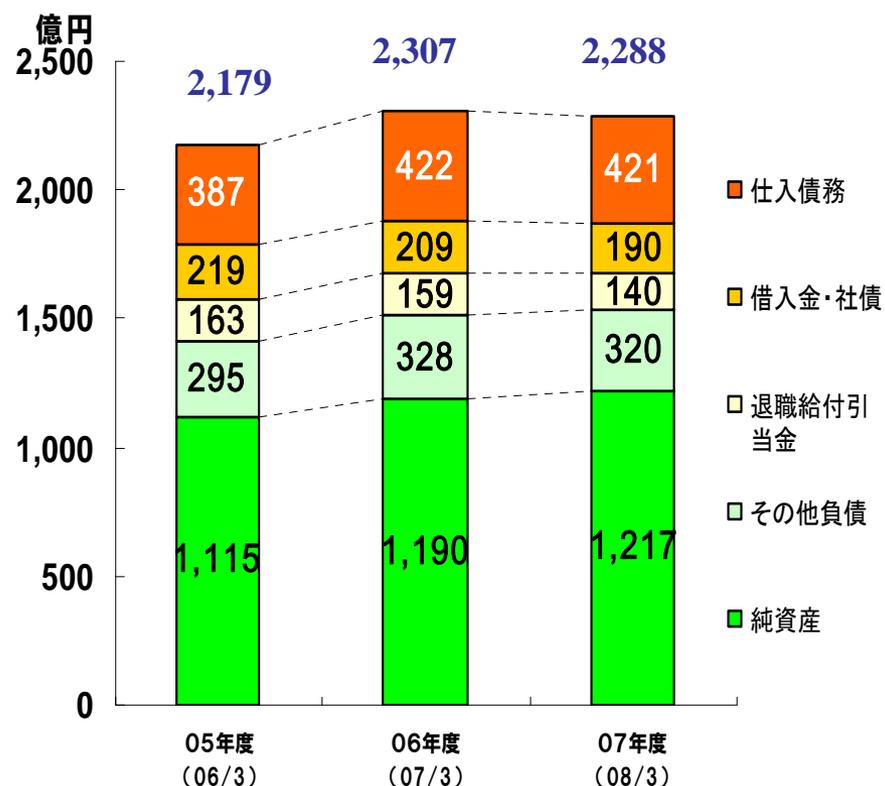
連結財政状況の推移



資産推移

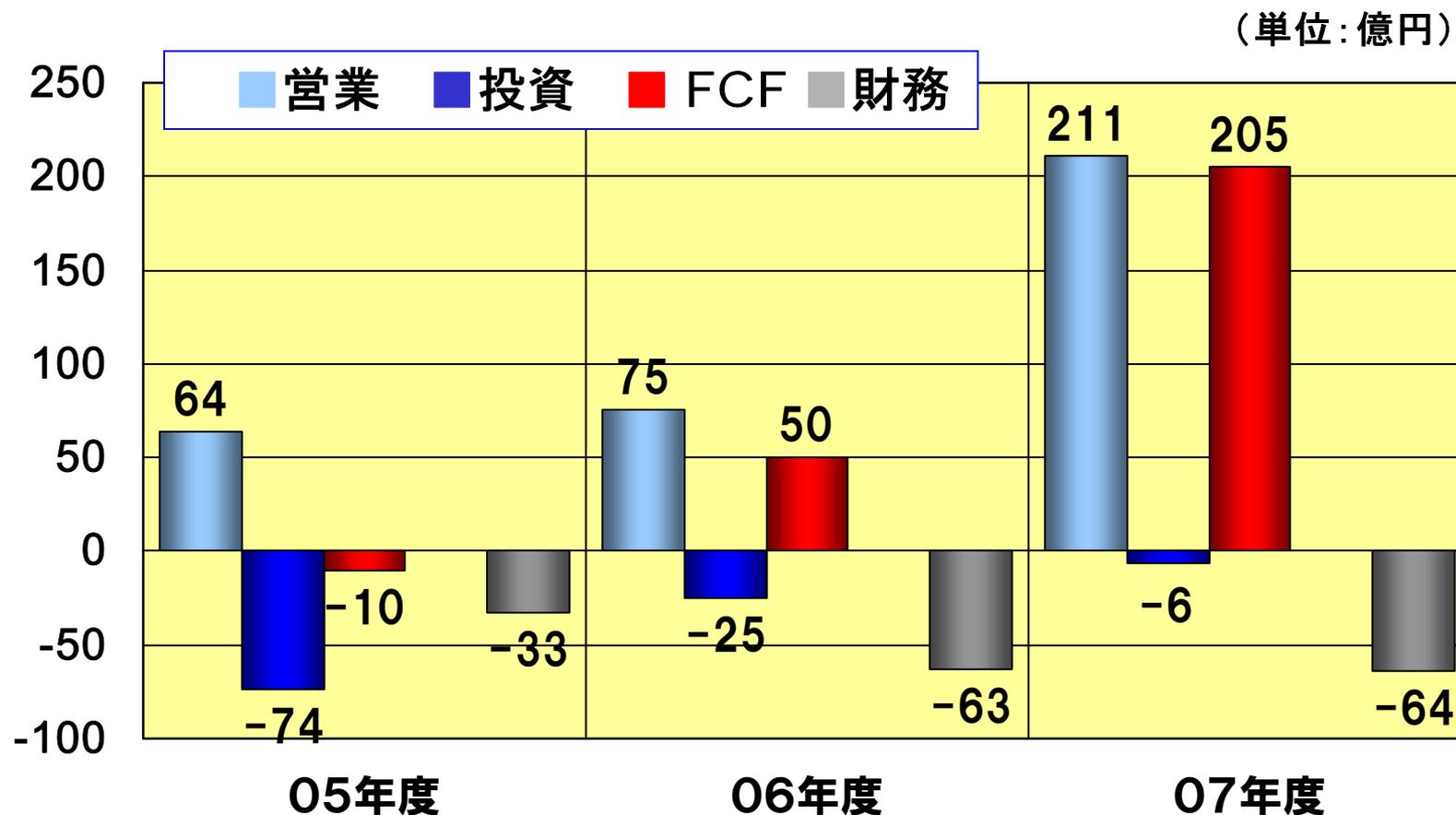


負債・資本推移



連結キャッシュフローサマリー

- 前年比増収にもかかわらず売上債権、棚卸資産が減少したことにより、営業キャッシュフローは大幅増加。
- 投資キャッシュフローは、旧工場跡地等の有形固定資産売却により微減にとどまる。



2 2008年度(2009年3月期)事業計画

2008年度 連結業績計画

- 「基盤を“確たるものにする”期」と位置づけた中期経営計画2年目として、事業と体制の基盤整備を実行し、国内設備投資の減速、原材料費高騰、為替変動など厳しい事業環境が予想されるが、増収、増益を目指す。
 - 売上高は2,530億円。前年比44億円増。1.8%の伸長。
 - 営業利益は211億円。前年比6億円、3.0%増。
 - 当期利益は122億円。前年比15億円、13.9%増。

(単位: 億円)

	2007年度 (2008/3期)	2008年度 (2009/3期)				年度比較	
	通期実績(A)	上期	下期	通期計画(B)	(B)-(A)		
					(B)-(A)	%	
売上高	2,486 億円	1,135 億円	1,395 億円	2,530 億円	44 億円	1.8 %	
営業利益	205 億円	66 億円	145 億円	211 億円	6 億円	3.0 %	
売上比%	8.2 %	5.8 %	10.4 %	8.3 %			
経常利益	204 億円	65 億円	143 億円	208 億円	4 億円	1.9 %	
税引前利益	195 億円	63 億円	137 億円	200 億円	5 億円	2.4 %	
当期利益	107 億円	36 億円	86 億円	122 億円	15 億円	13.9 %	

2008年度 セグメント別業績計画

● **BA事業は引続き増収・増益を見込む。AA事業は、利益体質強化に取り組み、市況悪化の影響を最小限に留める。**

- BA事業は、首都圏における大型再開発案件に一服感があるものの、新規、既設を含む市場全体としては高い水準での需要継続が予想され、売上高は、1,030億円(前年比25億円、2.4%増)、営業利益は、127億円(9億円、8.1%増)を目指す。
- AA事業は、国内設備投資抑制の影響を受け、厳しい事業展開が想定されるが、既設を中心とした安全や安定操業など、引続き堅調な投資が予想される分野や海外における事業強化を通して売上高1,060億円(前年比6億円、0.5%増)とほぼ前年並みを維持する。また、営業利益は、収益改善に向けた各種施策の徹底により、82億円(7億円、8.1%減)を確保する。
- LA事業では、金門製作所で引続き厳しい事業環境が予想されるが、都市ガス機器事業の需要が回復する等改善に向かう。完全子会社化による一体経営で経営基盤の強化を図り、収益改善施策の徹底で、LA事業全体では、売上高377億円(前年比12億円、3.4%増)、営業利益は1億円*(前年比3億円増)を目指す。

※ 金門製作所完全子会社化に伴うのれん代償却負担(会社見込)を計上後

(単位: 億円)

	2007年度 (2008/3期)	2008年度 (2009/3期)					
		通期実績(A)	上期	下期	通期計画(B)	年度比較	
						(B)-(A)	%
BA 売上高	1,005 億円	425 億円	605 億円	1,030 億円	25 億円	2.4 %	
BA 営業利益	118 億円	34 億円	93 億円	127 億円	9 億円	8.1 %	
BA 売上比%	11.7 %	8.0 %	15.4 %	12.3 %			
AA 売上高	1,054 億円	490 億円	570 億円	1,060 億円	6 億円	0.5 %	
AA 営業利益	89 億円	32 億円	50 億円	82 億円	△ 7 億円	△ 8.1 %	
AA 売上比%	8.5 %	6.5 %	8.8 %	7.7 %			
LA 売上高	365 億円	188 億円	189 億円	377 億円	12 億円	3.4 %	
LA 営業利益	△ 3 億円	△ 1 億円	1 億円	1 億円	3 億円	-	
LA 売上比%	△ 0.8 %	△ 0.3 %	0.6 %	0.1 %			
その他 売上高	84 億円	42 億円	43 億円	85 億円	1 億円	1.1 %	
その他 営業利益	1 億円	0 億円	1 億円	1 億円	0 億円	8.9 %	
その他 売上比%	1.0 %	0.5 %	1.6 %	1.1 %			

金門製作所 事業基盤・体質強化策の着実な遂行

金門製作所完全子会社による一体経営で、基盤整備・利益体質の強化策（ジャンプアップ計画）の展開を加速

2008年4月

2007年度

金門製作所完全子会社化

2008年度～

● 生産拠点の再編

- 京都工場での電磁流量計生産

● グループ人材の活用と最適配置

● 資産の効率化・コストダウン

● 生産拠点の再編

- 仙台工場の青森工場への集約
- 岩瀬工場の白河工場への集約

● 営業拠点の改革

- 人員・設備・業務の効率化

● 保守施工事業の拡大

- 金門・山武の協業、グループ人材の有効活用

● 営業活動における協業

- 製品の相互供給、協業による幅広いソリューションの提供など

● 両社一体となった技術・製品開発の加速

- 電池式電磁流量計など

3

**2007年度（2008年3月期）配当計画
2008年度（2009年3月期）配当予想**

2007年度配当と2008年度配当予想

- 2008年度の1株当たり年間配当を62円に増額予定。
普通配当は6期連続の増配。

普通配当
6期連続増配

2007年度
(計画)

$$\begin{matrix} \text{(中間)} & & \text{(期末)} & & \text{(年間)} \\ 30 \text{ 円} & + & 30 \text{ 円} & = & 60 \text{ 円} \end{matrix}$$

2008年度
(予想)

$$\begin{matrix} \text{(中間)} & & \text{(期末)} & & \text{(年間)} \\ 31 \text{ 円} & + & 31 \text{ 円} & = & 62 \text{ 円} \end{matrix}$$

	2002年度 (実績)	2003年度 (実績)	2004年度 (実績)	2005年度 (実績)	2006年度 (実績)	2007年度 (計画)	2008年度 (予想)
1株当たり配当金	12 円	14 円	23 円	50 円	50 円	60 円	62 円
普通配当	12 円	14 円	23 円	40 円	50 円	60 円	62 円
記念配当	—	—	—	10 円	—	—	—
純資産配当率(DOE)	0.9%	1.1%	1.7%	3.5% ※1	3.2%	3.7%	3.6%
配当性向	16.6%	31.8%	45.6%	37.6% ※2	34.6%	41.2%	38.0%

* 純資産配当率: 配当総額 ÷ 純資産

※ 1: 普通配当 2.7% + 記念配当10円分(0.6%)

* 配当性向: 配当総額 ÷ 当期純利益

※ 2: 普通配当 30.0% + 記念配当10円分(7.6%)

山武グループは、
「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心・快適・達成感」を実現する
とともに、地球環境に貢献します。



現場で価値を創ります

株式会社 山武

azbil
人を中心としたオートメーション

<http://jp.azbil.com>

山武グループ azbilは山武グループのシンボルマークです。

4 その他

山武グループの“基盤を確たるものにする”ために
独自技術・新製品による商品力強化



人を中心としたオートメーションを実現する商品群

効率のよい執務・生産空間の創造と、環境負荷低減に貢献

- 熱源設備における省エネルギーを実現するための最適制御システム(U-Opt)

エネルギー管理データベースから負荷熱量、外気条件を取得し、気象情報を加え、あらかじめ構築した熱源設備のシミュレーションモデルを用いて、精度の高い負荷予測を実現可能としています。夏期における運用試算でCO2排出量約4~7%の削減を実現しました。

- 流量計測制御機能付電動バルブ (アクティブバル™)

流量計測機能によるエネルギー管理と搬送動力削減・熱源効率向上を実現する流量制御機能による省エネルギー制御で環境負荷低減に貢献します。



- 超大規模複合建物監視システム(savic-net FX)

最大管理点数15万点を実現したFXは、超大規模な建物や複合施設の一元監視を可能としています。FXは、設備管理の合理化、運用の効率化を実現し、都市再生、活力あふれる豊かな街づくりに貢献してまいります。

- 調光機能付き蛍光灯安定器 (あっとらいと™)

「4段階調光機能」により大幅節電(消費電力最大40%削減)を実現し、「長寿命」で省資源、「ノイズ低放出性能」により各種精密機器への悪影響が少ないといった特長を有しています。



- ASP型建物設備管理情報支援ツール (Building-Support™)

建物の設備保全情報の進捗状況(スケジュール、トラブル対応、引継ぎ情報)や設備の修繕履歴データなどをWeb上で一元管理するツールです。日常保守の効率化。適正な保全管理計画の策定、実施。

- バルブ診断ツール(Valstaff)

フィールドの調節弁の稼動状況に関わる情報を収集し、調節弁メンテナンス業務の効率化を行います。状態管理のための各種診断、情報伝達などを伝えることで、意思決定支援が実施できます。



- 微小流量デジタルマスフローコントローラ (CMQ-V)

水晶発振子、レンズを生産する真空蒸着装置向けに高精度で再現性の高いガス流量制御、および高周波ノイズに対する高い耐性を実現しました。長期に再現性の高いガス注入量制御によりお客様の生産物の品質安定・歩留まり向上に寄与します。



安全で人の能力を発揮できる
生産現場の実現

その他参考数値

	2006年度 (2007/3期)	実績 (B)	2007年度 (2008/3期)		2008年度 (2009/3期)
	実績 (A)		増減 (B) - (A)	%	計画
●設備投資					
山武	43 億円	37 億円	△ 6 億円	△ 14.6 %	60 億円
連結子会社	9 億円	8 億円	△ 2 億円	△ 16.3 %	12 億円
連結	53 億円	45 億円	△ 8 億円	△ 14.9 %	72 億円
●減価償却費					
山武	23 億円	28 億円	5 億円	23.3 %	30 億円
連結子会社	16 億円	16 億円	△ 0 億円	△ 1.5 %	17 億円
連結	39 億円	44 億円	5 億円	20.8 %	47 億円
●研究開発費	88 億円	98 億円	11 億円	12.2 %	105 億円
売上高比%	3.7 %	4.0 %			4.2 %
●人員(期末日現在)					
山武	6,193 人	6,328 人	135 人	2.2 %	6,520 人
国内連結子会社	2,766 人	2,701 人	△ 65 人	△ 2.3 %	2,730 人
計	8,959 人	9,029 人	70 人	0.8 %	9,250 人